

信州大学「信州データサイエンスプログラム（リテラシーレベル）」

令和 6 年度後期 自己点検・評価書

信州大学全学教育センター長

杉本 光公

信州大学全学教育センター データサイエンス教育部門長

高野 嘉寿彦

1. 点検の概要

令和 7 年 3 月に当センターのデータサイエンス教育部門において、本プログラム（リテラシーレベル）の修了に必要な科目である「データサイエンスリテラシー（以下、本科目）」の実施状況・成果について点検・評価を行った。

点検にあたり、当センターの平井佑樹准教授から次のとおり報告があった。

- ・ 信州大学の 1 年生について、後期前半履修者の約 94%が単位を修得した。この数値は昨年度の同時期と比較すると 4 ポイント程度改善している。また、前期や再履修者用科目での修得も含め、令和 6 年度履修者 2,043 名のうち 1,968 名（約 96%）が今年度中に単位を修得した。
- ・ 単位を修得できなかった主な原因は、これまでと同様に、小テストの未受験や記述課題の未提出であった。
- ・ 学生に対するアンケート結果から、次の 3 点が明らかになった。
 - 本科目の良い点については、前期と同様に「情報社会を知ること」や「知識獲得」に関する意見が比較的多かった。令和 5 年度前期での開講以降、初めて「自分で学習を進められること」が回答数の上位にあがった。
 - 本科目の改善点についても、前期と同様に「資料の多さ」を指摘する意見が比較的多かった。令和 5 年度前期での開講以降、初めて「小テストの制限時間が短いこと」が回答数の上位にあがった。
 - 学習方法に関する後輩へのアドバイスについても、前期と同様に「自分で理解する・調べる」ことなど、主体的学習を促す意見が比較的多かった。
- ・ 大学全体で実施している「学生による授業アンケート」結果について、令和 6 年度前期で課題となった「資料等の見やすさ」についてはこれまでどおりの評価であったものの、「授業目標への到達」や「達成感が得られた」については、今期の評価平均値が最大となった。

その後、平井准教授から、令和 7 年度前期に向けて、高校新学習指導要領に対応した教材となるよう、適宜取捨選択を行って整理（例：令和 6 年度までは新課程で新たに追加された「外れ値」などについて十分な説明を行ってきたが、それを削減あるいは省略する）してい

くという提案があり，部門員でそれを確認した。

2. 評価の概要

後期前半での単位取得率が昨年度の同時期よりも4ポイント程度上昇したこと，また，学生による授業アンケート結果（この結果は当センターWebサイトにて公開している）において，「授業目標への到達」や「達成感が得られた」の評価平均値が最大になったことから，これまでの授業改善が奏功していることを確認した。前述の本科目の改善点に関する対応を引き続き行い，今後も各期前半での単位修得率向上を目標としていくことを確認した。

以上